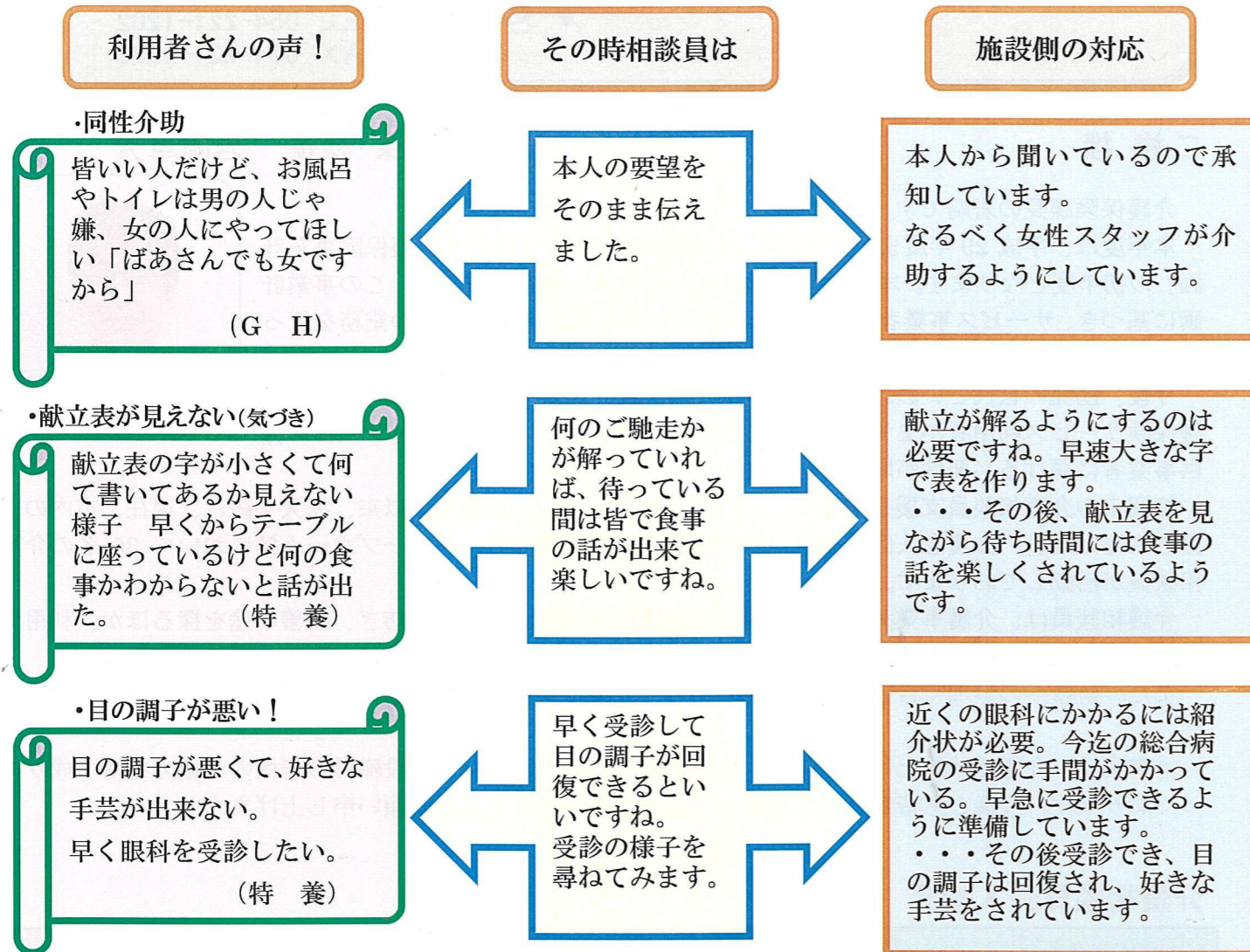


# こんな相談がありました

利用者さんからの相談等は事業所の皆さんの努力や工夫によって解決されています。

## ～施設にはこんな風に橋渡し～



(利用者、ご家族様からの相談事例、相談員の気づきは報告書にて行政に提出しています)

相談報告内容 (気づきを含む)	介助、機能訓練	施設、設備	コミュニケーション	健康状態 その他	食事、飲食	入浴、排泄、清潔、整容	レクリエーション、娯楽	個人的要望、その他	身体拘束 虐待	財産管理 家族関係	制度 政策	利用者の人間関係	合計 件数
件数	43	55	62	103	70	65	49	144	23	54	6	28	702

全国の相談事例もご覧いただけます

介護相談・地域づくり連絡会のホームページ <http://www.kaigosodan.com/>

最近版にはこんな相談も掲載されています \*ベッドを壁につけて欲しい \*刻み食は味気ない \*生果が食べたい

# 戦後70年特集

今年には戦後70年です。ご年配の方は若木の頃、国の内外で戦争体験という辛酸をなめられたことでしょうか！(昭和20年7月頃)その聞き書きの一部です。

空襲警報で防空壕へ。一段と激しい轟音。壕内の土砂が崩落。命ぢまる。後ですぐ前の海からの艦砲射撃と知り、全身のふるえが暫くとまりませんでした。  
(女性 三保地区)

労働者の夫と5才の息子とで山間部へ移動命令。田畑も知人も無く、息子は病と栄養失調で餓死。重い認知症のなかでこの記憶のみ明瞭で、今も涙枯れず。  
(女性 葵区)  
(忘れ難い彼女の人生航路に胸痛む)

学徒動員で愛知県知多市の軍需工場へ。入隊検査で帰省の折、実家で夜中の空襲に遭い巴川にとび込む。川にも火が走り、かつ下水からの熱湯で火傷の人々も。朝方目見えず。軍医の診察で「油脂なら治るが黄燐なら一生失明。」幸い全快、かつ外地派遣免除。・・・が、戦争は不幸のみ。  
(男性 清水区)

20才、12才の女2人の暮らし。食糧尽きて浜北の身内へ。列車が磐田駅を出た所で突然の敵機からの機銃掃射。逃げ場が分からず天龍川鉄橋を2人きりで歩く。「酷暑と死んだような真昼の天地のみ。」敵機が戻れば即死だ。長さ千メートルもの鉄橋から対岸の夏草の繁みに倒れ込んだ。  
(女性 駿河区)

## 老いても自分らしく豊かな日々を生きる.....

家族の幸福を願い、戦争の悲惨と苦難に耐え、骨身を惜しまず働きつづけ、皆それぞれの悲喜交々を経て、年を重ねて辿り着いた今日。老いても、介護が必要となっても心穏やかに、自分らしい日々を過ごされている方々をご紹介します。

### \*99才のKさん(女性)

今年も居室前のベランダに向日葵と朝顔の種を蒔きました。北向きの為、時季外れに咲く向日葵を「秋子だね。」と冗談を言いつつも、成長を楽しみに世話をしています。このプランターの土や肥料は、Kさんの要望に応じて園長が直々に用意してくれました。また、日々新聞に目を通し、塗り絵も見事な出来栄で、「なかなか忙しいのよ」とおっしゃる笑顔がステキです。

### \*100才のWさん(女性)

少し手が不自由でも廊下に置かれた植木鉢への水やりをする。さすがベテラン、花の名前、世話の仕方など植物の知識が豊かです。ご自慢は長い間手塩にかけて育てた銀杏の盆栽。ここに一緒に連れて来て共に過ごしている。毎年、春先に芽吹くその生命力を愛おしみ、とても心癒されているのだと、穏やかな表情から伝わってきました。